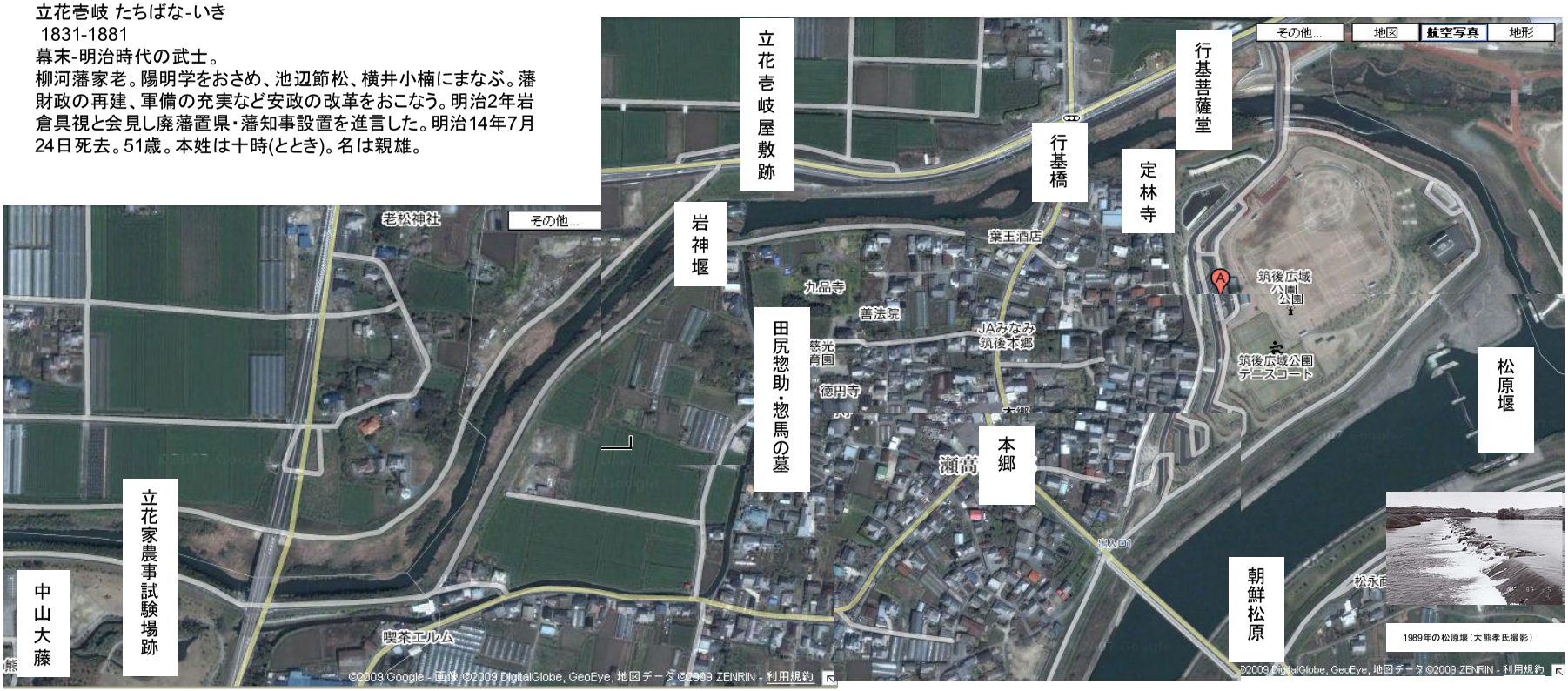
ゆつら一つと沖端川　MAP

行基橋：奈良時代に大仏建設などに尽力し社会事業で全国をまわっていた行基が作ったと伝承がある。実際には九品寺の僧達が「行」を行っていた場所に因んだものと考えられている。

立花壱岐 たちばな-いき
1831-1881
幕末-明治時代の武士。
柳河藩家老。陽明学をおさめ、池辺節松、横井小楠にまなぶ。藩財政の再建、軍備の充実など安政の改革をおこなう。明治2年岩倉具視と会見し廃藩置県・藩知事設置を進言した。明治14年7月24日死去。51歳。本姓は十時(ととき)。名は親雄。



立花家農事試験場跡：明治期の立花家の当主、寛治の私設の農業試験場跡。彼はイギリス貴族を理想として、華族は議員となるか別の方法で国家に貢献するべきだと使命感を持っていた。試験栽培や篤志家による種苗交換会や品評会を行い「宮川早生」もその中で広がった。

本郷（一般論）：養老元年（717年）、条里制の里に代えて初めて郷が置かれ、さらに天平年間に至り、郷が人民把握の最小単位に位置づけられた。多くの場合、本郷は、荘園・公領の政治的・経済的・流通的なセンター機能を果たした。中世後期になり自治共同体の中心地域を指して用いられ始めた。例）東京都文京区本郷。

岩神堰：文政4年（1821）に設置された岩積みの堰

九品寺：矢部川の治水事業に尽力した田尻惣馬、惣助父子が眠る。1695年（元禄8年）北山の千間土居を造った時、

子の惣馬は助手となり完成させた。惣馬は矢部川の管理の為、この寺の東隣に居住していた。奈良時代に草創された。この地に居城していた岩神将監の墓もある。

資料作成　：　矢部川をつなぐ会　　～山から海まで未来につなぐ～

柳川市城隅町18-9

TEL0944-75-5555（うなぎと川下りの大東内　有明会気付）

定林寺：廃寺になった跡に観音堂を祀ってある。お堂の外には弘法大師も祀られお彼岸にはお参りのお遍路さんで賑わうという

松原堰：平成10年に現在のゴム堰に改築。

朝鮮松原：1594年立花宗茂は朝鮮より凱旋し本郷の矢部川に松を植え（朝鮮松原）カササギ（朝鮮カラス）を放った。大正時代までは百本を超えていたが、太平洋戦争中、燃料用に松脂を取り枯死し、現在三十本位補植してある。